

## 教育工学

## T P 製作の基礎・基本

—T P 製作の具体的手順を中心として—

経営研究部 山田 明

## 1. はじめに

T P を自作する際、書く文字の大きさや行数、カラーシートの貼り方、マスキング用紙のフレームへの止め方などに、もう少し工夫と配慮があれば、きれいで使いやすく、しかも、効果的な T P ができるのに、自己流で作っている先生方がいることを、教育工学の講座を担当して知った。

OHP の機能や特性等については、どの本にも書いてあるが、T P 製作の具体的手順や製作上の配慮等は案外少ないので、今回は、T P 製作の基礎・基本に限定して、まとめてみることにした。

## 2. T P 自作の意義

教材研究にさえ時間のとれない多忙な仕事の中でわざわざ T P を作らなくても、市販 T P があるではないかという人がいる。確かにいろいろな T P が市販されている。でも、市販 T P は、全国の児童・生徒を対象にして作られた全国共通版である。これに対して、自作 T P は、教師自らが指導しようとしている児童・生徒を対象として作った地域限定版である。授業での利用にあたっては、自作 T P は、すぐ利用でき効果も大きい。しかし、市販 T P は、児童・生徒の実態に即していない部分もあるので、広域カリキュラムを自校化して使用するのと同じように手を加えて使用するなどの工夫が必要である。

同じ単元を、同じ教材を使用して授業をしても、授業者が変われば、指導力や教材に対する見方・考え方が変わるため、授業の中味も変わってくる。ここに、教師の個性にあった T P が必要になってくる理由があるのである。教師が T P を作る一連の作業は、教材研究であり、授業改善、授業創造の過程である。この T P 製作の経験を通して、教材を見つめる目、教材を使用する方法を自分のものとすることができ、さらには、市販 T P のより効果的な活用方法をみいだすことができるようになる。

## 3. T P 製作の具体的手順

シートに書く文字の大きさは、小学校低学年なら 1.5 cm 角、中、高学年で 1.2 cm 角、中学生以上で 1

cm 角の大きさがほしい。ペンの色は、青、紫、緑、赤などで、はっきりと見やすくゴシック体で書くことよい。文の字数や行数は、文字の大きさによって変わるが、要点を整理して、簡潔明瞭に書くことが大切である。以上が T P 製作の基本である。

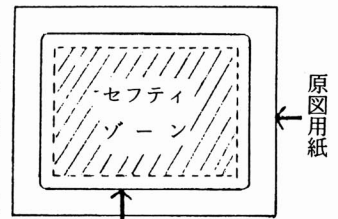
## (1) 原図を書くための用紙

T P を書く時、いきなりシートに書く人はいないはずである。よい T P を作りたいなら、必ず完成 T P と同じ原図を書き、原図が完成したあとで、その上にクリアシートをのせ、油性ペンで写しとって、製作する技法を実行してほしい。市販のファックス用原稿用紙でもかまわないが、自分専用のオリジナル用紙を印刷して作っておくことを勧めたい。

たて、よこ 26 cm の正方形を、4 mm 方眼と 5 mm 方眼の 2 種類で、更紙に印刷しておくことよい。5 mm 方眼を 3 目盛ずつ使うと 1.5 cm 角、4 mm 方眼を 3 目盛ずつ使うと 1.2 cm 角、5 mm 方眼を 2 目盛ずつ使うと 1 cm 角というように、必要に応じて字の大きさや行数を自由に変えることができる。

## (2) フレームを原図用紙にのせ、内枠を写す

使用するフレームの内枠の大きさを示す印を、初めから原図用紙につけておいてもよい。フレームの内枠を写しとるということは、有効画面を決め、その枠内に文字や図を書けば、全部投影されることを意味している。しかし、上下左右 1 ~ 2 cm の余白を残し、ファイル（紙枠）の内枠にしてその内側のセフティーゾーン内に原図を書いたほうが、投影時見やすい画面になる。



## (3) 原図を正確に書く

原図を正確に書くことが、よい T P 作りの基本である。原図の段階でよく考え、内容を十分吟味すべきである。オーバーレイの方法で T P を作る時にはオーバーレイするシートの枚数に応じて、マザーシートの分は赤ペンで、2 枚目のシートの分は青ペンでというように、色ペンを使って文字や図などを書いておくと、後の作業がしやすくなる。

## (4) 原図にシートをのせ、油性ペンで写しとる。

原図ができたら、クリアシートをのせ、油性ペンで写しとる。この時、原図とクリアシートが作業の途中で動いてしまわないように、左右 1 カ所くらい